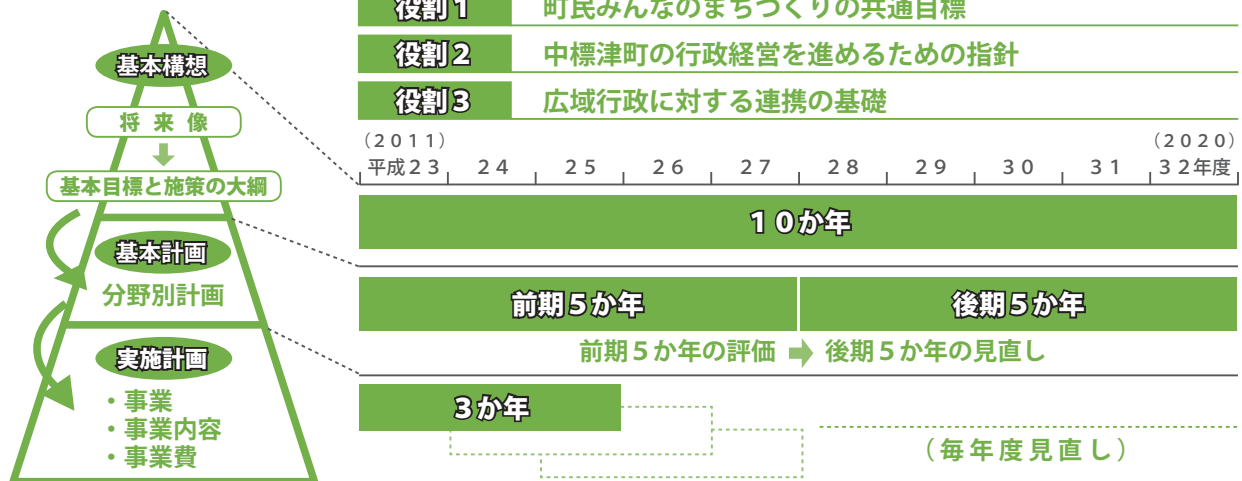


第6期中標津町総合発展計画

総合発展計画の趣旨と役割

総合発展計画とは

まちづくりの総合的な計画として、最も上位に位置づけられ、総合的、計画的な地域経営を進めていく上での基本的な指針となるもので、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3つで構成されています。



役割1 町民みんなのまちづくりの共通目標

役割2 中標津町の行政経営を進めるための指針

役割3 広域行政に対する連携の基礎

(2011) 平成23 24 25 26 27 28 29 30 31 (2020) 32年度

10か年

前期5か年

後期5か年

前期5か年の評価 → 後期5か年の見直し

3か年

(毎年度見直し)

- ①**基本構想**：本町がめざす将来像と、それを実現するための基本目標等を示したもので、計画期間は10年間とします。
- ②**基本計画**：基本構想に基づき、今後取り組むべき主要施策などを各分野にわたって体系的に定めたもので、前期計画期間を5年間とし、前期計画終了時に計画の見直しを行います。
- ③**実施計画**：基本計画に示した主要施策に基づき、具体的に実施する事業を定めたものです。計画期間は3年間として別途策定し、ローリング方式（毎年度見直す方式）により調整します。

新たなまちづくりに向けて

本町の特性、対応すべき課題、まちづくりへの思い

- 【特性1】** 都市機能が集積する広域的拠点性のあるまち
- 【特性2】** 日本有数の酪農をはじめ、商業集積を誇る産業・交流が活発なまち
- 【特性3】** 豊かな自然環境と緑の中に街が輝く美しい景観を有するまち
- 【特性4】** 保健・医療・福祉環境の充実に取り組むまち
- 【特性5】** 文化・芸術活動、スポーツ活動が盛んなまち
- 【特性6】** 地域への愛着が強く、町民主体によるパートナーシップ活動が展開されるまち

- 【課題1】** 自立した町の行政経営と協働による町民主体の地域づくり
- 【課題2】** 子どもから高齢者まで健やかに暮らせる地域づくり
- 【課題3】** 産業構造の変化に対応した、力みなぎる地域産業の構築
- 【課題4】** 住みよさを未来につなぐ都市基盤の整備
- 【課題5】** 安全・安心の確保と環境保全を重視する住環境づくり
- 【課題6】** 次世代を担う人づくりと地域文化の一層の向上

【まちづくりへの思い】	一般町民 (回収 889/ 配布 2,500 名)	中高生 (回収 458/ 配布 498 名)	
まちへの愛着度 “愛着を感じている”	79.1%	68.1%	
今後の定住意向 “住み続けたい”	77.0%	48.0%	
今後のまちづくりの特色について	第1位	52.4% 「健康で安心して暮らせるまち」	35.6% 「健康で安心して暮らせるまち」
	第2位	36.7% 「酪農や商工業など活力ある産業のまち」	35.4% 「自然と共生する美しいまち」
	第3位	29.5% 「便利で快適に暮らせるまち」	34.1% 「便利で快適に暮らせるまち」
地域活動・ボランティア活動について 今後、地域活動等に “参加したい” 人	56.6%	—	

中標津町の将来像

まちづくりの基本理念

理念
1

「自然と暮らし」が調和した、笑顔あふれるまちづくり

豊かな自然環境と活力ある産業が調和し、安全・安心な暮らしが確保された、だれもが住んでみたい、住んでよかったと思える、「自然と暮らし」が調和した、笑顔あふれるまちづくりを進めます。

理念
2

「中標津らしさ」を創造する、誇れるまちづくり

本町ならではの地域資源や、これまでのまちづくりの成果と反省を生かして、人づくり、地域づくりなど多彩な「中標津らしさ」を創造し、誇れるまちづくりを進めます。

理念
3

「連携と協働」でつくる、希望あふれるまちづくり

様々な分野における町内外での連携や町民・企業・団体・議会・行政がそれぞれの役割と責任を持って協働し、「連携と協働」でつくる、希望あふれるまちづくりを進めます。

中標津町の将来像

将来像は、本町が平成32年度にめざす姿を内外に示すものであり、それは“中標津町らしさ”をより一層生かしたまちづくりの象徴となるものです。

本町の特性や課題、町民のまちづくりへの思い、そしてまちづくりの基本理念を総合的に勘案し、めざす将来像を次のとおり定めています。

「空とみどりの交流拠点・中標津」 ～あつまるまち つながるまち ひろがるまち～

道東の空の玄関口である中標津空港を有する広域的な拠点性をはじめ、酪農を中心とした第1次産業、豊かな自然環境、商業集積などの特性を伸ばし、“自然と暮らし”が調和した、だれもが住みたくなる、訪れたい「空とみどりの交流拠点・中標津」をめざします。

また、“連携と協働”でつくる将来像のイメージを補足するサブタイトルとして「あつまるまち つながるまち ひろがるまち」を掲げます。

「あつまるまち」 人・産業などが集まること。

「つながるまち」 人・産業・自然がつながり循環していくこと。

「ひろがるまち」 人と人との絆・交流が広がっていくこと。

将来人口の目標

2020年度（平成32年度）の将来人口を

25,000人

とします。

特に3つの対応を基本に、定住人口の増加を図ります。

- (1) 少子高齢社会・人口減少への対応
- (2) 中心市街地への対応
- (3) 周辺地域への対応

